

太平洋戦争末期にアメリカ合衆国（米国）は日本に2個の原子爆弾を投下した。この米国大統領の決断について、

- A 米国人聴衆（読者）に対して、これを正しかったとして擁護する議論
- B 日本人聴衆（読者）に対して、これを正しかったとして擁護する議論
- C 米国人聴衆（読者）に対して、これを誤りだったとして批判する議論
- D 日本人聴衆（読者）に対して、これを誤りだったとして批判する議論

を、解答用紙のA～Dのそれぞれの欄に、各300～500字で書きなさい。

#### 解答作成上の注意

- i 一般常識として知られていると思われる範囲の歴史上の事実を基礎にしなさい（その一部については下の「基本的事実」の欄を参照のこと）。議論の組み立て方を評価しますので、基礎となる事実に関する知識が正確でなくともかまいません。また、もし史料によって確かめないとわからない数字その他が議論のために必要なときは、仮に「〇〇」として、「〇〇年」「〇〇人」のように書いて結構です。地名・人名などについても、わからない時には「〇〇付近」「〇〇島」「〇〇大統領」などとして結構です。
- ii 上のA～Dの4つの議論は、それぞれ独立のものとし、独立に採点します。そのため、他の欄で書いたことでも、必要な場合には議論を繰り返して下さい。また、別の議論の間で相互の主張内容に齟齬があっても、減点にはなりません。

#### 基本的事実（参考）

- 1945年7月26日、ポツダム宣言が発表された（米英中による。後にソ連も参加）。
- 7月28日、軍部主戦派の圧力に屈した鈴木貫太郎首相が、この宣言を「黙殺」と発表。
- 1945年8月6日、広島市にウラン235爆弾が投下された。
- ソビエト連邦（ソ連）は、1945年2月のヤルタ会談でドイツ降伏後に対日参戦することを米英両国に約束し、8月8日、対日参戦を行った。日ソ中立条約はこれにより失効した。
- 8月9日、長崎市にプルトニウム爆弾が投下された。
- 広島原爆投下時に市内にいた約42万人の市民のうち、約15万9000人が4カ月後の1945年12月末までに死亡した。長崎では約27万2000人が被爆し、約7万4000人が早期に死亡した。それ以外に広範な晩発性障害があることが、主に投下後、次第に明らかになった。
- 1945年8月15日、日本によるポツダム宣言受諾により終戦。
- 最初の原爆が完成したのは1945年7月16日であり、アラモゴードの砂漠でプルトニウム原爆の実験が成功した。
- 日本は当時、軍部も含めて、「国体護持」を中心とするいくつかの条件が充たされる場合には、事実上の敗戦を受け入れようと考え、ソ連（参戦以前）に交渉の仲介を依頼していたが、これは成功しなかった。